

黙示録による福音
最も大切な問いかけに答える
黙示録 22 章後半

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さん、こんばんは。いよいよ、黙示録の最終回を迎えることになりました。気分的にはね、“蛍の光” かが何か流しながら登場したい気持ちもあるのですが。

お正月に家内と 2 人で映画に行きました。『ラーゲリより愛を込めて』。シベリアに抑留された日本兵たちの物語、実話に基づく映画です。シベリア抑留は平均 4 年。戦争が終わっているにも拘わらず国際法違反で、スターリンの命令によって 4 年間も、60 万～70 万の日本兵がシベリアに引っ張って行かれたんですよ。一番長い人たちは 10 年だったんです。冬場は -40℃ですよ。戦犯扱いされ、最後までシベリアに抑留されていた人たちの実話に基づく映画です。私はこの物語を本で読んでいました。もう 15-16 年前に。

主人公の山本幡男 (やまもと はたお) は 10 年間も収容・強制労働させられていて、いつ解放されるか分からない。みんな気がおかしくなっていく。そんな仲間たちを励まして、正気を保たせるために「勉強しよう。」昔 吉田松陰が野山獄 (のやまごく) に投獄されていた時、囚人それぞれに得意なジャンルで先生になってもらって勉強し、正気を保った。「我々も勉強しよう。」万葉集・俳句・共産党の歴史、色んなことをやって励ましていくんです。

ところが、10 年経ってようやく解放される日が近づく中、今まで励まして来た山本幡男さんが癌になったんです。首に大きな瘤のようなもの (膿ですよ) が出来、どんどん増大して、いつ破裂するか分からない。見るに見かねた戦友たちが山本さんに、「万が一 (としか言えなかったんですが)、日本に戻る前にここで亡くなってしまったら、ご家族は死んでも死に切れんだろう。遺書を書いてください。」それで、末期癌の痛みの中で、一晩で 15 ページ書くんです。ノートに。それが 4 通。家族宛。お母さん宛。子供たち宛。最愛の妻宛。それを渡しました。

ところで、ソ連の強制収容所で一番やったらいけないのは、文字を書き残すことです。どれぐらい厳しかったか。収容されている日本兵が地面に字を書くだけで制裁を受ける。「おまえ、今 思想的なことを書いたんじゃないか?!」文字を書き残したのものや、ラーゲリ (収容所) の出来事を描写したものを外部に持ち出されることを一番神経質に恐れたので、まして遺書なんか外に持ち出せない。

それをなんとか持ち出そうと苦労するのですが、何十回も身体検査・持ち物検査が

あって、とうとう没収されるんです。4通の内3通。1通だけ持ち出し出来た。

戦争終わって10年。山本さんは亡くなったんですが、待っていた家族は4通とも受け取ったんです。没収されたのに、なぜ受け取れたのか。暗記したんですよ。

「命の恩人と言うべき山本幡男の遺書は、万が一ソ連兵に見つかって没収されても、一言一句欠くことなく家族に届けるために、頭の中に納めておこう。」

何人にも分かれて、一言一句間違いがないよう、原文通りに完全暗記したんです。

しかし、日本に戻っても家族の居場所が分からない。捜して捜して捜し当てて、暗記している遺書を文字起こして遺書として渡すんですが、ある兵士たちは山本幡男のくせ字も完璧にコピーし、筆跡までも瓜二つに書いて渡していったんですね。

その遺書、本物の遺書と同じ内容を映画の中で喋るんですが、もう耐えられませんでした。泣かずにおれない。その中身がクライマックスなんですが、非常に中身の濃い映画ですのでお勧めしたいと思います。

戦争が終わって、もう10年経ってる。長男は大学生だったと思います。

遺書の美しい言葉、こんなに愛がこもった言葉によって、家族一人ひとりが奮い立って行くんですね。だけど欲を言えば、こんなにも愛がこもった言葉を書いた本人が、生きたままもう一度現れて、自分たちを迎えてくれたらどんなにいいだろう…というのが余韻として残る映画なんです。

黙示録は、ヨハネがキリストから聞いたことを一言一句漏らさずに書いた、励ましの預言書です。クリスチャンは、つい世の中に流されそうになったり、つい自分を見て失望したりする時、黙示録の希望の約束を見ることによって奮い立ちますよ。だけど一番いいのは、奮い立たせる黙示録を受けたイエス・キリストご本人が再び来て、クリスチャンたちを迎えてくださることなんです。

今日最終回、黙示録 22 章後半の中で、イエス・キリストは「見よ、わたしはすぐに来る」と3回言ってます。

結局クリスチャンの望みは何なのか。22 章はクリスチャンだけへのメッセージではありません。聞くすべての人々への黙示録による福音。最も大切な問いかけをしている章なんです。

今日の黙示録 22 章 6-21 節、その内容を大きく分けると4つです。

1. 神による黙示録の認定

ヨハネの黙示録は神から承認を受けている。

2. イエス・キリストの7つのメッセージ

全部やったら時間ないけど全部やります。ポイントだけになりますけど。

3. ノンクリスチャンへのメッセージ

まだイエスを信じていない人に明確に語られている言葉。

4. 黙示録改ざんへの嚴重注意と聖書全体の結論

創世記に始まった聖書全体の結論はいったい何か、を最後に語って終わります。私には大きな励ましになりました。皆さんにとっても、そうであったら幸いだなと思います。

1. 神による黙示録の認定

日本の公立学校—小学校・中学校・高校は、授業で教科書を使いますね。その教科書は文部科学省が書いて出版してるのか。違います。民間の出版会社がそれぞれ執筆者を選んで自由に教科書を書き、文部科学省による教科書検定を受ける。検定に合格した教科書だけが、公立の小中高で使えるんです。どんな力作でも、検定不合格なら使ってもらえません。検定に合格していることが絶対に大事なんです。

黙示録。非常に複雑怪奇というか、分かりにくいというか、難しそうというか。「黙示録って神のことばなの？聖書の中に入れて良いの？これは紛れもないイエス・キリストの預言なの？」
預言なんです。黙示録は聖書全体の結論です。黙示録は聖書そのものです。一ということをお神ご自身が認定している。それが 6-9 節です。

6 御使いは私（パトモス島に流されたヨハネ）に言った。「これらのことばは真実であり、信頼できます。」預言者たちに霊を授ける神である主は、御使いを遣わして、すぐに起こるべきことをしもべたちに示された。

「これらのことばは真実であり、信頼できます。」一見当たり前のことですよ。真実だから信頼できる。なに当たり前のこと言ってるの？

この真実は ἀληθινοί / アレスィノー。もちろん “真実” の意味ですが、より具体的なイメージは “影ではなく本体” です。たとえではなく実体。コピーではなくオリジナル。

旧約聖書の中に、聖書の真理をたとえて語っているところがあります。新約聖書の中にもありますよ。イエスはたとえて神の国の奥義について語りました。あるいは、聖書の中の様々な物語がひな型となって、ある真理を投影しているところがあります。

しかし黙示録に限っては、たとえやひな型ではなく神のファイナルアンサー。実体。黙示録に書いてある預言は文字通り・額面通り・字義通りに受け止めるべきこと。隠された真理とかではありません。

黙示録は Ἀποκάλυψις / アポカルプシスで、本来は “覆いを取り除かれた” という意味です。長い間ベールがかぶされていたことが、遂に黙示録で全貌が明らかになった。その全部をいったい誰が見聞きしたのか。「誰だろう、この私ヨハネです。」

「色んな預言者がいたけど、私以前のどの預言者にも知らされなかった神の奥義の全貌が、元漁師の、この私ヨハネに全部示された。」

そういうことを思った時、あまりの感動・感謝・感激・光栄、色んなものが混ざり合って、それを告げてくれた御使いに対し、思わずやっではならないことをやろうとしてしまいます。

8 これらの（ひな型ではなく実体の）ことを聞き、また見たのは、私ヨハネである。私は、聞いたり見たりした後に、これらのことを示してくれた御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようとした。

あまりの感動と、御使いの権威ある姿を見た時、思わず拝もうとした。

日本人やったら、すぐに拝んでいると思います。

だけどね、ヨハネはユダヤ人なんですよ。ユダヤ人が神以外のものを拝むというのは、よっぽどのことがない限りありえないことです。

だけど、それをせずにおれないくらい、御使いの神々しい姿と、ある種の感動と興奮と感激があって「あ～～」と拝みたくなったその時、

9 すると、御使いは私に言った。「いけません。私はあなたや、預言者であるあなたの兄弟たち、この書のことばを守る人々と同じしもべです。神を礼拝しなさい。」

ここで注目したい言葉があるんですね。この書。この書は**黙示録**です。

つまり、御使いから「これらのことばは真実であり、信頼できます」と言われた時、ヨハネの手元には黙示録が完成している。どういうことですか。

ヨハネは見たり聞いたりするたびに、それをこまめに書き取ってたんです。

“全部見て、それを一から思い出した”ということじゃない。

見ながら聞きながら、見るたびに聞くたびに、こまめに正確に、そのままを書いていた。だから、22章6節の段階で、5節までの黙示録が彼の手元にあるんです。

そして、御使いが「私は預言者や、この黙示録を守り行っている人々と同じしもべです」と言ったということは、「ヨハネの黙示録は、多くの預言者が書いて来た預言書と同列の神のことばである。」

すなわち、神が御使いを通して「バイブル検定合格！ヨハネの黙示録は紛れもない聖書である」という承認の印を押されたのです。だから学ぶべきなんですね。

2. イエス・キリストの7つのメッセージ

キリストはここから7つのメッセージを語っていきます。

1) 10 また私に言った。「この書（黙示録）の預言のことばを封じてはなりません。時が近いからです。」

なぜ黙示録を封じてはならないのか。黙示録を封じてしまうと、読まずにいると、

読まなくなると、今が**終末時代**に入っていることが分からなくなるからです。

黙示録のほとんどは**艱難時代**の預言ですよ。艱難時代に入って初めて起こる事件ですが、それに繋がるような事件が、終末時代に近づけば近づくほど、ここかしこに見出せる。それによって、艱難時代にどんどん近づいていることが分かるんです。

もっと言うと、黙示録を読ませないように働いている霊の力があるんですね。黙示録に関心を持たず、真摯な興味を持たず、「難しそう、分からない」で、読まないように読まないように仕向けたいと考えている霊的存在があります。それはサタン。

なぜサタンは、人々が黙示録を学ぶことを嫌がるのでしょうか。黙示録の中に、サタンの結末がハッキリ書いてあるから。完全敗北と滅亡です。サタンがどのようにして止めを刺されるのか、明確に書いてある。"艱難時代に入っていなくても、**教会時代**のクリスチャンたちを悩ませているこの霊的な敵サタンは、要は敗北が決定しているじゃないか"ということが、前もって分かる書物なんですね。

黙示録には**7つの教会時代**という、艱難時代に入る前の教会を中心として見た歴史を俯瞰（ふかん）する箇所があります。黙示録を学ばないことは、時代が見えない、サタンが分からない、もっと言えば、聖書全体が分からなくなるのです。

旧約聖書 39 巻。3×9 で新約聖書 27 巻。聖書全体は合計 66 巻。最後が黙示録。1 巻から 65 巻まで、すべて黙示録に流れ込んでるんです。だから、黙示録で他の箇所を逆引きのように調べていくことができる。この預言書のこの箇所は、実は黙示録のこの部分のことを語っていた！というように、聖書全体が読めてしまうんですね。

ところが、「なんか難しいし分かりにくいし、どうせ難解で最後まで読み切れないから、やめたほうがいいよ」みたいな。いやいやいや。この書の預言のことばを封じてはなりません。クリスチャンが聖書を聖書的に理解できるカギは黙示録にあるから。これが 1 つ目のメッセージです。

2) 11 不正を行う者には、ますます不正を行わせ、汚（けが）れた者は、ますます汚（けが）れた者とならせなさい。正しい者には、ますます正しいことを行わせ、聖なる者は、ますます聖なる者とならせなさい。」

これはちょっと難しい箇所ですね。神様は罪をそそのかしているんかと。

「不正を行う者には、ますます不正を行わせなさい」って。

「不正を行わせないようにしなさい」って止めなあかんののに、「不正を行っている者は、もっとエスカレートして不正をするのに任せなさい」って、どういうこと？

文脈で考えると、これは「黙示録は封じてはならない」と言ってるんです。だから、封じないで黙示録が宣べ伝えられる時代が来ます。それは今ですよ。しかし、黙示録の警告ですら不十分だと言って拒否するなら、もはや神の側で語ることは残ってません。

神は黙示録の中で「語るべきことは全部語りつくした」と言っておられるんです。人間が知るべきメッセージを、神は黙示録までで全部語り切りました。そのメッセージを聞いても「はは～ん。神なんて怖くないよ。創造主なんかいないわあ」と言って不正を行っている者は、この警告を退けたからには、それ以上の警告はもうないので、ますます不正を行うようになるんですね。

逆に、黙示録のメッセージを素直に受け止めて…、先々週もこの集会に来られた方がいて、「どうして聖書を信じられたんですか。」「黙示録です。携拳が怖かったんです。実は今も怖いです」と言われてたんですけど。はっきりイエス・キリストを信じてたら大丈夫なんですよ。

クリスチャンを、また、そうでない人も神様の方に振り向かせるもの、もっと正しく良く生きようと思う動機づけを与えるものが黙示録のメッセージです。黙示録のメッセージは**再臨**のキリストを宣べ伝えるからです。

人生にはいつか締め切りが来ます。締め切りがない仕事って、いつまでも片付かないですよ。 「いつまでも生きてるわ」と思っていたら、何も成し遂げられないかもしれません。「人生のどのタイミングかで、キリストが来られるかもしれない。私が死んだら、神の前に立って自己弁護しなければならないとして、自分にそれができるだろうか。」

この**最後の審判**について明確に語っているのが黙示録です。なので「**聖なる者は、ますます聖なる者とならせなさい。**」 そうなって行くと言うんです。

ヒルティという人が『2回目の法則』という言葉を使っています。以前にもここで紹介したことがあります。「どんなことでも1回目よりも2回目のほうが楽だ。」

電車でお年寄りに席を譲るって、なんか恥ずかしい。でも、1回譲って感謝されたら、2回目からは立ちやすくなりますよね。生まれて初めてタバコ吸う。ドキドキ。吸うたらアカン。吸うたら…ゲホゲホ…。初めてルール違反する時はドキドキですが、2回目からはあまりドキドキしません。良いことでも悪いことでも、1回目よりも2回目、2回目よりも3回目4回目のほうが楽になっていくんです。

神を拒否することでも同じで、拒否すれば拒否するほど、拒否することが楽になる。神について行けばついて行くほど、信頼すれば信頼するほど、信頼することがいよいよ楽しくなる。人は自分が選ぶ方向にエスカレートする。

そのことをここで語っているように思いますね。

3) 12「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。」

これは再臨の目的です。

「見よ、わたしはすぐに来る」は7節にもあって、22章ではここで2回目。

「これ、いつ書かれたんですか。」「AD96年・97年くらい。ドミティアヌスの時代だと思いますよ。」今から約1900年前。「すぐに来るって、もう1900年経ってるやん。全然すぐと違いますよ！」

「すぐに来る」は、一旦それが始まると瞬く間に起こるということです。今の世界、激変は一日で起こると思いませんか。一つの事件で一気になら変わると思いませんか。世界というのは、なだらかな曲線のように、 $y=ax$ の式のように行くんじゃないくて、事件が起こるたびに、その前後でガラッと変わってしまう。そんな変化の仕方じゃないかと思うんですよね。

例えば、去年の2月24日の前後で世界は変わりましたね。ロシアがウクライナに軍隊を入れた日ですよ。あの前後で世界はもう激変です。ロシアは消耗し、我らの消費者物価は跳ね上がり、国連の機能は完全にマヒし。私は今回、もしかしたら国連とは違う、新しい世界の力学の組み換えが起こるのではないかなと見てるんです。

実際、今は国連で討議して新しいことが決まっているんじゃない。例えば、レオパルト2を供与するのか、ロシアにどんな制裁をするのか、国連で決められないですよ。だって、ロシアが拒否権持ってるから。だから、国連と違うところで話し合ってますよね。G7ですよ。つまり、世界はもう一度冷戦時代に逆戻りして、別の新しい世界の枠組みができるのではないかと。私はそれをずっと考えている最中なので、発表は次回の天満橋バイブル倶楽部でさせていただきたいと思います。

あるいは武漢ウィルス、どうですか。コロナが蔓延する前と後では…。前から見てるとみんなマスクして。してないのは私だけやん。コロナの前、天満橋バイブル倶楽部は100名入る会場でやってたんです。それでもどんどん人が入って来て。今ね、50名の部屋。やっぱり警戒して。私、バーツ（唾）出すし。アクリル板にいっぱい点々付いてる。

私たちのライフスタイルがCOVID-19、いや、もう武漢ウィルスですよ。武漢ウィルスのせいで激変したんじゃないですか。今年中学1年の女の子たちは、「もうマスクしなくてもいいよ」と言っても中々取らないそうです。中学2年生以上は取るそうです。ずっとマスクしてるので、マスク外すのが恥ずかしい。なんか下着脱ぐような感じ。

私なんか見てほしいほうやから、もっと見て～みたいな感じやけど、そんな人ばかりじゃない。

私たちの感性・文化・メンタル・ものの感じ方など、疫病一つでガラッと変わったじゃないですか。しかし、どんな事件よりも大きなインパクトを世界に与える大事件は**キリストの再臨**です。キリストの再臨の前後で世界は激変します。

ところで、キリストは2度再臨するんです。ある時 反キリストが登場して、イスラエルと7年間の安全保障条約を結びます。それが7年間の艱難時代の初日。艱難時代の最後はキリストが地上再臨する日。これがユダヤ歴でちょうど7年。

再臨とは、一般的に、キリストがイスラエルに**地上再臨**される瞬間です。しかし、艱難時代が始まる前に、いつなのか日は限定されてないけど、キリストが空中まで来られて、クリスチャンたちを一気に天に引き上げる（**携拳**）。空中まで来られるということで、これを**空中再臨**と言う人もいます。携拳と地上再臨の前後で世界は大きく変わります。どう変わるんですか。

携拳の後は塩気がなくなるので、世界は一気に暗くなり、艱難時代に向かってますます加速します。

地上再臨の後も世界は激変します。良くなるんです。**千年王国**が始まるからです。キリストの到来以上に、全世界に大きなインパクトを与えるものはありません。

ところで、キリストは何のために来られるんでしょう。

一つは世界を変えるためですが、「それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。」

それぞれの行いに応じて報いるとは、信者にも未信者にも、それぞれに見合った報いをするということ。

キリストを信じて罪の赦しを得ている人たちへのキリストの報いは、キリストにあって生きたことの報いです。私たちがクリスチャンとして行う一つひとつの小さな親切や、色んな些細なことも、キリストはそれを全部メモっておられて報いてくださるのです。

キリストはクリスチャンに良い報いを携えて来るだけでなく、反キリストに従う人には裁きという報いを携えて来られます。それは一旦起こり始めると、あっという間に瞬時に終わっているのです。

だから、「すぐに来る」という言葉遣いをすることによって「準備していなさいよ。警戒しなさいよ。緊急事態の中で生きていると思いなさいよ」と呼び掛けているように思います。

4) 13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。

これは、神としてのキリストの権威についてのメッセージです。
キリストは神に造られたものではありません。被造物じゃない。神と全く等しい方。

わたしはアルファであり、オメガである。

ギリシア文字は全部で 24 文字です。最初の文字がアルファ/α、最後がオメガ/Ω。
アルファであり、オメガであるとは 24 文字全部。

最初であり、最後であるという意味と同時に、24 文字すべてを含んでいる。

「北は北海道から南は沖縄まで」と言ったら、日本全土の都道府県を含むのです。

新約聖書はギリシア語で書かれています。ギリシア語の文章は 24 文字の組み合わせで全部書くことができるんです。それは日本語も同じで、50 音で日本語の文章全部書き表すことができますよね。

つまり、キリストは神の完全な啓示です。神様が言いたいこと、神の本質は、髪の毛 1 本落ちることなく、キリストのうちに完璧に現れています。

キリストは神の完全な啓示です。キリストというアルファベットを通して、神は人に伝わるメッセージを語ってくださいました。

同時に、初めであり、終わりである方ということ、**今おられ、昔おられ、やがて来られる方（黙示録 1:8）**と、父なる神様に向かって語られているんですね。

父なる神様に該当する言葉が「わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

意味は「父なる神と同質の神ご自身。イエスは人となられた神ご自身である。」
その方が「ヨハネよ、語って来たんだぞ」と言われるわけですね。

昨日のニュースで、ドイツが遂にレオパルト 2 を供与すると。

さっき誰かが“レオパレス”言うてたけど、それちゃうから。それ賃貸住宅やから。あまりにも訂正せんと言うてるから、直したほうが絶対いいと思ったんですけど。

レオパルト 2。攻撃力・防御力・スピード、最強の戦車ですよ。

ヨーロッパのベストセラー。NATO に正式採用されている戦車で、ヨーロッパ各国が 2000 台持っているの、みんなが少しずつ供与するだけで、武器弾薬の補充も簡単にできる。

だけど、ドイツは独ソ不可侵条約を破って、戦車でソ連まで突っ込んで行ったじゃないですか。独ソ戦争。ソ連側から見たらソ独戦争でしょう。

だから、強力な武器を提供することは、間接的とはいえロシアと戦うことになる。それはいいんだろうか。歴史的な経緯で躊躇してたんですけど決断したんですね。

そのニュースで BBC か何かの記者が、東部ドンバス地方で戦っているウクライナ兵士にインタビューしました。「西側の最新戦車が来ますよね。」

「おお！」と驚いて「最後は地上戦だ。」

地上戦は歩兵が戦います。歩兵が相手の陣地まで行って、戦争が終わった時に歩兵が立っている場所が新しい国境線になるんです。

その時、歩兵だけで戦いに行くのと、歩兵の隣に戦車があるのとでは、恐怖心が全然違う。向こうは戦車を持ってる。戦車の甲板は銃で撃っても跳ね返すんですよ。だけど、こちらにもでっかい戦車、頼もしい強力な兵器と一緒に移動して、今自分のすぐ隣にいると思うだけで、恐怖心ゼロじゃないけどずいぶん和らぐ。

ヨハネの傍らにおられた方はどんな方なのでしょう。

アルファであり、オメガであり、最初であり、最後であり、初めであり、終わりであり、神ご自身、全知全能の神がキリストである。それが4番目のメッセージです。

5) 14 自分の衣を洗う者たちは幸いである。彼らはいのちの木の实を食べる特権が与えられ、門を通過して都（新天新地の新しいエルサレム）に入れるようになる。

これは信者の祝福ですね。

新しいエルサレムに門から入ることができる唯一の資格は、自分の衣を洗って清くされた人たち。自分の衣を洗うのは、何で洗ったらいいんでしょう。

私はジェットストリームというボールペンを使っていて、つい芯を出したままポケットに差すから、カッターというカッター、ジャケットというジャケット、もうボールペンで…。いつも家で言われるんです。「もう！クリーニング出してもアカンで言われた！」そら、ボールペンはクリーニングで落ちんやろと。そんなことも分からんのかと。いやいや、そういう話やないんやけど。

どうしたら私の罪を洗い流すことができるんでしょう。この言い方・表現は既に黙示録に出てるんですね。

黙示録 7 章

14 **そこで私が「私の主よ、あなたこそご存じです」と言うと、長老は私に言った。「この人たちは大きな患難を経てきた者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたので。」**

これはたとえですよ。血は赤いですから。血で洗ったら赤くなる。

でもここでは、子羊の血で洗ったら白くなった。何が白くなったんですか。

私の罪が子羊の血で全部洗い流された。神がご覧になっても、どこにもシミ一つ見つけることができないくらい、罪は完璧に全部洗い流された

それは、どのようにして手に入れることができるんでしょうか。

子羊の血を受け取ることなんです。世の罪を取り除く神の子羊としてイエス・キリストを信じる。信仰による救い。イエス・キリストを自分の救い主として信じる。

これだけで、自分の衣を洗った者と見なされる。ありがたいですねえ。

これが5番目です。

黙示録 22 章に戻って

6) 15 犬ども、魔術を行う者、淫らなことを行う者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべての偽りを好み、また行う者は、外にとどめられる。

これは反逆者たちへの裁きの内容です。

外とは新天新地の新しいエルサレムの外。外にとどめられるとは、新天新地の新しいエルサレムに一度も入ることができないということ。

第3版の訳は“外に出される”でした。“外に出される”だと“一度中に入って外に出て行った”ような誤解を生むので、2017年版では外にとどめられる。

中には一歩も入ることができない。

どんな人たちですか。犬ども。これは、もちろん動物の犬のことではありません。僕は犬が好きなので、聖書で犬が悪く言われているのを見ると時々心が痛い。ここは敢えて、こう訳したらいいと思うんですね。

犬ども、すなわち、魔術を行う者、淫らなことを行う者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべての偽りを好み、また行う者。

魔術を行う者は φάρμακοι / ファルマコイ。日本語では魔術を行う者で長いじゃないですか。ギリシア語では1つの単語でファルマコイ。ファルマコイには薬物を使う者という意味があります。ファーマシー / 薬局はファルマコイから来てるんです。これは、麻薬・覚醒剤・幻覚症状を起こすような薬を使って、おかしな霊にアクセスする人たちのこと。神秘主義です。

世の終わりになると、麻薬に対するガードがどんどん下がって行きます。

アメリカでは州によって、マリファナはもう合法じゃないですか。

淫らなことを行う者。何をもって淫らというかは人によって違うかもしれませんが、自分の人生を振り返った時、淫らなことを思ったことはないか。あります。

人を殺す者。自分の中で「コイツ死んじまえ！」と思ったことはないか。あります。

偶像を拝む者。クリスチャンになる前、自分で偶像を作っていました。何か拝む物が欲しくて。吉野の山奥で取って来て、それを彫って拝んでたことがありましたね。

すべての偽りを好み、また行う者。ウソをつくこと。

これらの者は外にとどめられる。

このリストの中にいくつも…。いや、さすがに魔術はない。薬物を使ったことはないですよ。オールピーをね、オールピーって分かりますか。

♪ぴ・ぴ・ぴ・ぴ、オールピ・ピ・ピ♪、知りませんか。知らんわな。

あのね、眠気を吹っ飛ばすドリンク剤。それを風邪薬と一緒に大量に飲むとトリップできるという、そんなん聞きませんでしたか。

皆さんは良い人たちですよ。でも、そんなんじゃないです。

だけど、その他のことを考えると「これ当てはまる。これもダメなんじゃないか」と思って、すっかり神に見捨てられたような心境になる方がいるかもしれません。でも、**魔術を行う者**と書いてあるんですよ。者。医者の者。忍者の者。つまり、そういう行為を一度でもしたというよりも、常習的にそれを行っている者。そこから逃れるつもりが全く無い者。逃れたいと願ってない者。

クリスチャンになる前に薬物依存で、クリスチャンになってから、その誘惑とずっと闘っている人を何人か知っています。凄いことです、これは。「ここに書いてあるからもう無理！」そうじゃない。

逃れたい、やめたいという気持ちがさらさら無い。「神なんか認めない。好き勝手にやる」と言う者たち。救いに対して「ノー」と言っている者たちのことです。彼らは「神は要らない」という願いが完全に満たされる世界に行くんですよ。それは神の恵みがどこにも無い世界。それが新天新地の外なんです。自分が願っていたところに行く、ということでもあるんですね。

7) 16「わたしイエスは御使いを遣わし、諸教会について、これらのことをあなたがたに証した。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

ヨハネの黙示録はだれ宛てに書かれたかということ、直接的には諸教会です。艱難時代の人たちも読むでしょう。しかし、直接の読者は教会／クリスチャンの共同体／クリスチャンです。

ここでキリストは自己紹介をなさっています。
わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。

ダビデの根はダビデのルーツ。ダビデはそもそも王家のロイヤルファミリーではなかったのに、なぜ2代目の王になることができたのでしょうか。だれがダビデを王として立てたんでしょう。ダビデ王家を創設したのはいったいだれでしょう。神です。その神とはだれか。わたしイエスだ。

同時に、イエス・キリストは、人としてはダビデの子孫として生まれました。イエス様は人間としてユダ族／ダビデの家系の中から生まれて来られた。

イエス様がダビデの根、ダビデの子孫ということを取って教会に語っておられるのを見た時、私はこう考えました。このことを示唆しているようにも思いました。「クリスチャンたちよ、イエス・キリストのユダヤ性を認めよ。教会こそ、イスラエルの回復を祈れ。教会はイエス・キリストという花婿を得たが、この花婿はイスラエル民族と切っても切れない方なのだ。だから、教会がユダヤ人を迫害するなんでもってのほか。イスラエルの霊的回復のために祈れ。」

輝く明けの明星。夜明け前に最初に上る星です。最も暗い時に一つ輝く星。
艱難時代という最も暗い時代の前にまず輝く星。
艱難時代の前にクリスチャンを迎えに来てくださる方。イエス・キリストです。
イエス・キリストを天体に例えた言い方がもう一つあるんですね。
それは義の太陽。義の太陽は千年王国時代です。
艱難時代という最暗黒の時代の前に、明けの明星として来てくださるんですね。

これで7つのメッセージが終わりました。
3番目のノンクリスチャンへのメッセージはちょっと後回しにして、

4. 黙示録改ざん厳禁命令

**18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者に証しする。
もし、だれかがこれにつけ加えるなら、神がその者に、この書に書かれている災害
を加えられる（裁きを受ける）。**

黙示録にまだ付け加える人なんかいるのだろうか。黙示録は聖書の最後です。
聖書全体に、聖書と同じ権威を持つ別のものをくっつけるのは、全部裁きの対象になります。

統一教会には原理講論という本があって、それを聖書よりも上にしています。
モルモン教はモルモン経（けい）。アメリカの地面を掘ってたら金の板が出て来た
という、これを聖書よりも上に置いています。それを神のことばだと信じています。
異端はみな、聖書以外に神のことばの権威を認めるものとして、そういうものを付
けるんですね。滅びます。

**19 また、もし、だれかがこの預言の書のことばから何かを取り除くなら、神は、
この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その者の受ける分を取り除かれ
る。**

要するに、新しい都に入れないから、これも滅びということなんですね。
「この部分は神話だ。聖書は作り話だ。こんなことは神のことばではない。」
クリスチャンと自称する者の中からも、そういうのが出て来る。

これは、本当にキリストを信じている人たちは絶対にしないことです。
完成している神のことばの中に自分の言葉を付け加えて、それを神の権威と同等に
置くなんて、そんな恐ろしいことを実行するのは、これはクリスチャンじゃない。
どんなに敬虔な姿をしていてもアウトです。

「原典としての聖書は旧・新訳聖書 66 巻のみで、そこには一言一句も誤りがない」
ということを知っているかどうか。

“原典としての聖書” と敢えて申し上げたのは、翻訳された聖書については、一言
一句誤りがないとは言っていないんです。

私も偉そうに、自分でよう翻訳せえへんくせに、「ここの訳はあんまり良くありませんねえ」みたいなことを何回か言いましたよ。翻訳された聖書だから。でも、原典の聖書／ヘブライ語の聖書とギリシア語の聖書の原本は、一言一句も誤りがない。このことを信じているかどうかです。

もし「ここの教会、大丈夫かな」と思ったら、聞いてみはったらどうですか。「ここの教会は聖書を額面通り、すべて神の靈感によって書かれたものと信じてるんですか。」「奇跡も何もかも全部、額面通り信じてますか。」聞いてください。「そんなことを信じてるのか！」というところからは、すぐに逃げてください。そういうところ、多いんです。あんまり言うとアレですけど、立派な建物のところほどやばいです。ちょうどいい塩梅が私たちの集会ということで。それ、いっぺん聞いてみてください。

20 これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」 アーメン。主イエスよ、来てください。

3回目のわたしはすぐに来る。その前に、しかりということばがありますね。しかりはギリシア語でナイ。ナイは日本語で「はい」。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛していますか。」「はい（ナイ）、主よ。私があなたを愛していることは、あなたがご存じです。」

「しかり（はい）、わたしはすぐに来る。」
キリストは返事なさってるんですね。何に対する返事なのかを頭に置いて、

コリント人への手紙第一 16 章

21 私パウロが、自分の手であいさつを記します。

22 主を愛さない者はみな、のろわれよ。主よ、来てください。

初代教会のクリスチャンはどんな挨拶をしていたのか。
「主よ、来てください」は Μαράνα θά／マラナタ です。
私もクリスチャンとお手紙でやり取りする時、必ず書きます。
書こうと思ってるんじゃないなくても、手が勝手に書いてますわ。「マラナタ！」
「マタナ！」ではないですよ。マラナタ。主よ、来てください。

初代教会時代のクリスチャンは何を励みとし、希望に置いて生きていたのか。
「主よ、来てください。」「主はまもなく来てくださる。」「イエス様は今携挙してくださるかもしれない。」そう思いながら生きていた。
だから、迫害が激しくなればなるほど、いよいよ「マラナタ！」「マラナタ！」と
言っていたでしょう。おそらく、それに対する返事です。「はい。」

地上でクリスチャンが「主よ、来てください」と言うたび、キリストは「はい。確かに聞いた。あなたは『来てください』とわたしに言った。はい。すぐに行く。」

キリストを待望する祈りを一つもこぼすことなく、よく聞いて覚えておられるのです。アーメン。主イエスよ、来てください。

21 主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。

第3版ではこの次に**アーメン**と書いてあるのですが、2017年版ではそれが削られてますね。採用した写本のネスル版が違っているということだそうですが、残念な気がします。

創世記に始まって黙示録で終わる。

創世記に夫と妻が出て来ます。妻のエバは夫のアダムに、善悪の知識の木の実を「あなたもどうぞ」と渡すんですね。アダムはそれを食べてしまいます。

「ああ、罪が入った。」そして、神に向かって「あなたが私のそばに置いたこの女が、私に食べさせたんです。」創世記に出て来る最初の夫と妻は、スタートは良かったけど、全人類に原罪を放り込んでしまった。

黙示録にも夫婦が出て来ます。子羊と子羊の花嫁である教会です。この二者の間には、混乱ではなく、美しい交わりと調和があります。

創世記には園があります。黙示録の最後は新しい都です。両方ともパラダイスと呼ばれますが、創世記のは失われたエデンの園。黙示録のは回復されたパラダイス。

創世記ではサタンが勝利します。黙示録ではサタンが止めを刺され、滅ぼされます。

創世記ではアダムとエバが神の御顔を避けて木の後ろに隠れました。黙示録では人々は神の御顔を仰ぎ見ます。

創世記では呪いが生じました。黙示録では呪いがなくなりました。

創世記では神に行く道が罪によって閉ざされました。

黙示録では都の門は夜も昼も閉ざされることがなく、主の恵みがすべての者と共にあります。

黙示録の最後は「主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。」最悪で始まった人類の歴史ですが、最高を突き抜けて、究極の祝福で終わるんです。終わるといって、そこから始まるんですね。それが黙示録が語っている世界観。

さて、先ほど敢えて飛ばしたところを、最後にお話しして終えたいと思います。

3. ノンクリスチャンへのメッセージ

17 御霊と花嫁が言う。「来てください。」これを聞く者も「来てください」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。

